

特定非営利活動法人 ピアソン会

第82号

2018.10. 3

ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel: 0157-31-1215

ピアソン記念館内

AM.9:30 ~ PM.4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

写真/姉妹都市エリザベス市の市庁舎



年記念グリーンコンサート実

願います。

内実施、④姉妹都市50周年記念ホームページ上で英語圏用バーチャル音声案内

①姉妹都市交流ビデオレター交換事業、②ピアソン夫妻日本伝道レポート翻訳事業、③ピアソン記念館ホームページ上で英語圏用バーチャル音声案内

②中高生のWeb会議、③英語指導助手の招聘、④病院相互の交流、大学相互の交流。などの事業が提案されました。打ち合わせ会では、これらの事業案を前提に、今後、両市間でどのように交流が進められるか、が検討される予定です。何れにしても相互交流が盛んになるように願います。

二番目の議題では、打ち合わせ内容の「姉妹都市提携50周年記念事業企画書(案)」について話し合いをしました。

●北見工業大学から、教育交流を通じたグローバル人材育成事業。●辻綾子さんからは、日本料理教室。最後に●北見市提案として、①市民相互の交流事業、

②中高生のWeb会議、③英語指導助手の招聘、④病院相互の交流、大学相互の交流。などの事業が提案されました。打ち合わせ会では、これらの事業案を前提に、今後、両市間でどのように交流が進められるか、が検討される予定です。何れにしても相互交流が盛んになるように願います。

●北見工業大学から、教育交流を通じたグローバル人材育成事業。●辻綾子さんからは、日本料理教室。最後に●北見市提案として、①市民相互の交流事業、②中高生のWeb会議、③英語指導助手の招聘、④病院相互の交流、大学相互の交流。などの事業が提案されました。打ち合わせ会では、これらの事業案を前提に、今後、両市間でどのように交流が進められるか、が検討される予定です。何れにしても相互交流が盛んになるように願います。

9月5日水曜日午後6時、第2回目の実行委員会が北見市役所会議室において開催されました。出席は7団体9名と事務局(市)3名、オプザーバー(市)2名、欠席が1団体での会議となりました。

北見市・エリザベス市姉妹都市
提携50周年記念事業実行委員会開催！

本年5月に第1回目の実行委などが決まっています。今回、委員会が開催され、実行委員会規程の委員会では、一番目の議題と約、実行委員のメンバー、今後して、3名の事務打ち合わせの委員会の役割(本年10月に、メンバーを決定(①畠一雄実行委、来々50周年記念事業実施への打員長、②許斐ナタリー監事、③ち合わせのため派遣)の検討、井上智之事務局長、10月17日から10月22日の日程)しました。

●北見交響吹奏楽団から、吹奏楽演奏での歓迎事業。●北見市青少年国際交流事業実施委員会からは、アニバーサリー記念エリザベス市訪問団の派遣。●ピアソン学園北見幼稚園から、①幼稚園同士の交流、②プロジェクト型保育の実践交流。

室内コンサート *Gifts of Sanctuary*

2018.10.14(sun) 17:00 ~ピアソン記念館

◎開催日時：2018年10月14日(日) 午後4時45分開場、午後6時終了予定

◎開催会場：北見市幸町7丁目 ピアソン記念館

◎鑑賞料金：500円(鑑賞予約券50名分で締切、中学生以下無料)

※予約受付は、ピアソン会事務局(電話☎31-1215、午前10時~午後4時)



素敵な来館者たち！



写真上／近江八幡市からヴォーリス建築のボランティアの方々。前右にヴォーリス学園学園史編纂室事務局長の檜山秋彦氏。(8月28日)



写真上／北見勤医協利用者の団体18名の来館。北見の歴史解説に耳を傾けていました。(8月23日)



写真左／「北見文化財めぐり」の来館者。(9月22日)

写真下／唐笠何蝶氏の孫にあたるバリ島在住の唐笠左言さんが、娘さんを伴って数年ぶりに来館されました。(8月28日)



写真左／北見市立中央小学校一年生40名の来館。(9月22日)



写真下／帯広市の老人クラブ連合会の皆様が、北見での全道大会の帰りに当記念館へ寄っていただきました。ピアソン夫妻の十勝監獄伝道に興味津々。(9月29日)

〇〇 瞳のことなら、よっしーへ!!

ふるふるめがね、機能的めがね、お気に入りが見つかります。
サングラス、アイファッション用品、めがねの修理も承っています。

瞳ふあっしょん・瞳けあ
めがねのよっしー

〒090-0043
北見市北三条西3丁目
TEL:0157-57-3664
定休日/毎週木曜日
営業時間/10:00~19:00

ピアソン
●キッズ価格
●アップス価格
特別の山手

| |
|-----|
| 三美酒 |
| 二美酒 |
| 一美酒 |

PCO提携



「ニュージージーランドからの便り」第13回

（ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏）



*2018.9.23

◆ワンガヌイの農園家屋に落ち着いています。水曜日(19日)にファンガパラオアから車で南下しまし

た。北島の中心はずっと桜の満開の中でした。ニュージージーランドの人々にとっては日本人と同じような意味合いはありませんが、驚くほど多くの人々が出ていました。ここも同じように素晴らしい景観で、花の期間はとても長く続きます。ワンガヌイの街並みや公園でも桜が咲いています。

◆美しい春の天候が続いています。羊たちは囲いの外で草を食み、遠方にはタラナキ山の頂上を覆う雪が鮮かな光景を見せています。

◆私の果樹園ではプラムの花期が終わわり、木々はすでに若々しい葉を付けています。強く健康そうに見えています。豊作になりそうかどうかはまだちょっとわかり

ません。2本の梨の木には白い花がびっしり付いています。好天で多くの蜂たちが来ていますので、来年は良い実を結んでもらいたいものです。リンゴの花がもう見え始めました。虫除けを新たにしました。去年はほとんどのリンゴが虫害を免れたので、今シーズンもまたそうあってほしいです。

◆ツバメが家の周りを飛び交っています。ガレージ用扉のそばの軒下に巣を一つ作っています。彼らを邪魔しないようにしています。まだヒナたちの気配はありませんが、時間はたっぷりあります。

◆昨日は川沿いの土曜朝市がある街へ行ってきました。春の陽光を楽しむ人々で混み合っていました。川の堤防で釣りをする人たちもいました。二人がほどよい大きさ20センチくらいの《kahawai》カハワイ(マルズズキ)を釣り上げたのが見えました。カハワイは潮流に乗って海から遡上してきます。

◆路店の一つに沢山の本の掘り出し物があることに気づきました。◆北見の友人方によりしくお伝えください。

驚「ピアソン学事始め」⑧

この「ピアソン学事始め」は、15年前に街の情報紙に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

(8) プリンストン大学を卒業してからの謎？

ピアソンさんは、プリンストン大学を1882年に卒業し、郷里エリザベスの近くの町のモーリスタウンという所のアカデミー教師を1年勤めたのち郷里エリザベスにあつた「ピングリー中学校」の教師になりました。プリンストンとエリザベスの距離は約八十キロくらい離れていますので、今なら車で一時間半程度ですが、当時の交通手段が何であつたのか、残念ながらまだ調査をしております。

ピングリー中学校はピアソンさん自身が学んだ中学校で、現在も実在しています。私立名門中学校として、評価されているようですが、今はエリザベス市にはないとのことでした。

この中学校が創設されたのは1861年、南北戦争の始まつた年でピアソンさんの父親もこの学校の創設に関わっていました。校長のピングリーは人格者で、彼の名声と影響は東部諸州

ピアソン会理事 伊藤 悟

にも及んだと記されています。

このピングリー中学校の記念誌が最近故小池創造牧師(元北見教会)の遺品から出てきました。学校は一度消失しており、ピアソン氏が教員をしていた頃の資料はまったく無いようです。ピアソンさんは、この学校で受けた教育の影響で、最終的に教師を辞め宣教師になる決心をしたということですが、ではなぜ大学卒業後すぐに神学部に行かなかつたのでしょうか？私は郷里での三年間の教員生活の中に、何らかのヒントがあると感ずるのですが：(つづく)



写真右/
Rev. Dr. John F. Pingry
Founder of the
Pingry School

北海道胆振東部地震で日延べの下記映画会を開催

第19回文化サロン de ピアソン 映画会「ラブ・レター」

◎開催日時：2018年10月27日(土) 午後4時45分開演、午後6時45分終了

◎開催会場：北見市幸町7丁目 ピアソン記念館

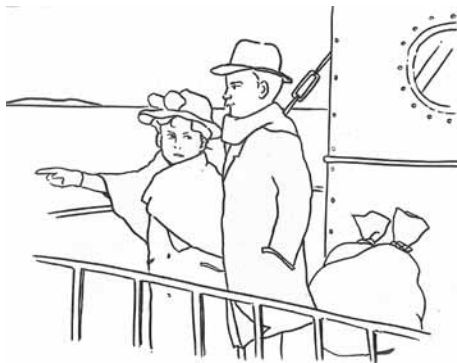
◎鑑賞料金：無料(鑑賞予約券30名分で締切)

※予約受付は、ピアソン会事務局(電話☎31-1215、午前10時～午後4時)



ピアノン夫妻資料収集記 (3)

ピアノン会理事 玉置 義弘



フィリップ・ヘンリー・ゲップ

● Philip Henry Goepf (1864年～1936年)

今回の調査でピアノン宣教師に次いで資料が多く出てきたのは、実はフィリップでした。ハーバード大学の同窓会誌とニューグロブ音楽辞典を見ると、彼の経歴がおおよそ分かります。1872年から1877年までドイツに住み、その時にピアノを学び始めたとありますので、1870年の母の死後ドイツの叔母の所に姉弟で預けられた時と思われる。アメリカに戻りハーバード大学で文学士、1888年にはペンシルベニア大学で法学士の学位を取得し、同年にフィラデルフィアで弁護士登録をしています。ハーバード大の同窓会誌で職業は音楽家となっております。音楽辞典にもオルガニスト、作曲家、音楽ライターと書かれています。

アイダ・ゲップの二人の弟、フィリップとルドルフについて今回は詳しく書きたいと思います。フィリップ (Philip Henry Goepf) と、ルドルフ (Rudolph Maximilian Goepf) は共にニューヨークで生まれています。この時期に父親はニューヨークで弁護士をされており、後に海事裁判所の判事になった事が記録に残っています。

彼はフィラデルフィアの第一ユニ

テリアン教会のオルガニストと聖歌隊の指導者を務め、また音楽に関する著述家として何冊かの本を書いており、「交響曲とその意味」は彼の代表作です。またアメリカの三大オーケストラの一つとされるフィラデルフィア管弦楽団のプログラムの曲目解説を担当する楽団専属の解説者でした。人気指揮者レオポルド・ストコフスキーが指揮した1913年のコンサートのプログラムに、フィリップの書いた解説を見つけました。

作曲家としての活動はあまり多くはなさそう、音楽の理論書の中に、日曜学校のための賛美歌集に、数曲彼の作曲した曲を見つける事ができました。合唱曲や器楽曲の出版記録はありますが、今回の調査でまだ見つける事が出来ていません。

彼の肩書は多く、ハーバード大の同窓会誌にドイツ民主党のアメリカ党友フィラデルフィア支部議長を務めたり、1914年にオーストリアに旅行した時、スパイ容疑で逮捕されたなどと書いてあり、父親に似て政治に強い関心を持っていたのかも知れません。彼の結婚記録はなく、1919年にはテンプル大学で音楽博士号を授与されたと音楽雑誌の死亡記事に書かれていました。1936年8月に彼は亡くなり、前号で、1940年死亡と間違つて記載してしまい、お詫びして訂正いたします。



ルドルフ・マキシミアム・ゲップ

● Rudolph Maximilian Goepf (1866年～不詳)

ルドルフの記録もハーバード大の同窓会誌から分かりました。彼は一年次の終わりに、大学を離れてコロラド石炭・鉄会社の技師になったが、いとこの誘いで酪農家を志すも、途中で気が変わりペンシルベニア大学で医学を学び1900年に卒業。その後フィラデルフィア総合病院に勤務。

病院が医学部研究施設でもあったので、臨床医学教授と医学部長などを務めていると書かれています。「Medical State Board Q&A」という本を書いており、この本は驚くことに現在でもAmazonなどで購入出来ます。ルドルフはマキシミアムという名をMAX(マックス)という名に変えており、公の名前もRudolph Max Goepfと書かれています。彼は1902年にジョセフィン・ラター・パイル Josephine Rutter Dyeと結婚し、5人の子供が生まれましたが、1917年にアリス・フィリップ・クラフラー Alice Philippa

Cloughleyと再婚しています。おそらく前妻を亡くしたためと思われるますが、アリスとの間には1人の息子が生まれています。彼の長男 Rudolph Max Goepf Jr. は有機化学の研究者になりましたが、1946年に戦争で荒廃した土壌の調査のためにドイツに向かう途中、カナダで飛行機事故で亡くなっています。また次男の Philip Henry Goepf Jr. は1910年に生まれ1987年にフィラデルフィアで亡くなっている事が確認できましたので、アイダ・ゲップの血縁者は今もフィラデルフィアで生活しているかも知れません。(つづく)

編集後記

9月6日 北海道胆振東部地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。編者も当時札幌の9階住居の娘のところにおき、おきな揺れとテレビや冷蔵庫・本箱の散乱、その後の停電によるエレベータの使用不能、断水によるトイレの水を9階まで運ぶ作業、とすっかり腰を悪くしてしまいました。当記念館で9月8日に予定していた映画会「ラブ・レター」は、地震により急遽延期となりましたが、今月27日に実施することとなりました。ぜひ参加ください。北海道大学構内にある新渡戸稲造を顕彰して建てられた「遠友学舎」で、平成遠友学校という講座が開かれています。9月25日に、「ピアノン夫妻」について紹介してきました。(理事兼事務局長) 伊藤 悟